

平成28年度 学校自己評価システムシート (県立川越女子高等学校)

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

重点目標	1 《学力の向上》生徒の学習意欲（進路意識）を喚起し、自学自習力の定着に努め、学力の向上を図る。 2 《人格の陶冶》「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 《開かれた学校づくり》関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	23名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(1月26日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の学習意欲は総じて高く、従来本校が行ってきた学力向上のための様々な取組は大きな成果を上げてきた。 今後は、国や県の指定事業等を有効活用するとともに、予定されている大学入試改革を見据えた幅広い学びを提供し、より質の高い学習指導・進路指導を推進する必要がある。	生徒の進路希望実現に対応した継続的・体系的な学力向上対策を推進するとともに自律的な学習者を育成する。	①自己理解と進路設計のための総学と進路ガイダンスを実施する。 ②アクティブ・ラーニング等を活用した授業の実施により、自主的に学習する態度を育成する。	①自己理解・進路設計に向け計画的・効果的に実施できたか。 ②アクティブ・ラーニング等を活用した授業を効果的に実施できたか。	①新たな学習OTを実施した。 ①新たな学習OT、総学、進路ガイダンスを予定通り実施した。 ②新聞を活用した学習や協調学習を実施した。また、1年生全員の課題研究を試行的に実施した。	A	3年間を見通して進路について学ぶ計画は効果的に進められており、今後も継続していく。 新たな学習OT、アクティブ・ラーニングについて、実施後の検証を重ね、必要に応じて改善を進める。
		生徒の学習状況や進路希望の把握に努めるとともに、大学入試改革等の進学情報を教員間及び保護者・生徒と共有し、効果的な学習指導・進路指導を実施する。	①教職員研修会、保護者向け勉強会、生徒への説明会等を実施する。 ②志望校検討会を実施し、生徒へのフィードバックを行う。 ③授業相互参観を実施し、授業力向上を図る。	①計画内容を実施し、情報共有がなされたか。 ②計画内容を実施し、進路指導に活用できたか。 ③計画内容を実施し、授業者へのフィードバックができたか。	①大学入試改革を中心に情報の収集と共有を推進した。 ①教職員研修2回、保護者のための進路勉強会5回、3年進学ガイダンス実施。 ②志望校検討会とそれに基づいた面談を2、3年生で実施した。 ③授業相互参観55件の実施。	A	大学入試改革が流動的であることから、引き続き情報収集及び共有を進めていく必要がある。 また、生徒の学習状況の把握のため、他教科への授業相互参観を進める。
		指定事業を効果的に活用し、学びの質をより高める。	①SSH事業(経過措置)を、効果的に実施する。 ②生徒の進路希望実現のため「骨太のリーダーを育成するための埼玉版リベラルアーツ事業」を効果的に実施する。	①予定内容を実施し、その効果について適正に検証できたか。 ②生徒が積極的に参加し、広く学ぶことができたか。	①各事業とも予定通り実施した。 ①予算を工夫し、昨年と大きく変えない内容で実施できた。継続申請書を提出済み。 ②教育局主催の生徒向け研修会に全て参加。延べ26名。	A	第3期SSH事業及び「骨太のリーダー育成のための埼玉版リベラルアーツ事業」等を今後とも十分活用して、生徒の進路実現を図っていく。
2	多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組んでおり、今後も生徒が自主的かつ規律ある活動を継続するように指導することが求められている。 生徒が安心して自主的活動を行えるよう支援するとともに、生徒の内面により働きかける指導が必要である。	自主・自律の精神の向上を促す教育活動を行い、自立した生徒を育成する。	①外部指導者を活用した講義・講演を行い、人間的成長を促す。 ②体育祭、文化祭をはじめとする学校行事の実施を通して、自主・自律の精神の向上を図る。	①参加生徒数の昨年実績を上回ることができたか。 ②各行事の生徒運営部分において、適切な計画立案ができ、計画通り実施するよう指導できたか。	①計画通り実施できたが、改善すべき面もあった。 ①SSH及び学習指導部主催出張講義計10回実施。参加数は昨年を上回らなかった。 ②各行事とも予定通り実施できたが、検証により改善が必要な反省点も出された。	B	出張講義について内容、実施時期、広報について引き続き検討していく必要がある。 また、学校行事については、教員間、生徒間及び教員と生徒による十分な連絡調整を図っていく。
		安心・安全な環境を整備し、生徒が様々な活動に打ち込めるようにする。	①教育相談連絡会議を定期的に実施するなど、教育相談の充実を図る。 ②ネットトラブル防止を目的とした講演会、研修会を実施する。	①計画内容を実施し、生徒情報の共有がなされたか。 ②計画内容を実施し、ネットトラブル防止に寄与したか。	①レジリエンス(精神的回復力)について研修会も行い、きめ細かな教育相談の充実を図った。 ①計画通り実施した。 ②講演会1回、研修会1回実施。	A	特に新入生にSNSに関するトラブルが起りやすいため、啓発内容の検討を引き続き行う必要がある。
3	これまで小学校、中学校、大学等と積極的な連携を図りながら、開かれた学校づくりを進めてきた。 今後とも、地域とのつながりを重視し、本校の教育活動をより幅広く情報発信するとともに、地域貢献を意識した取組を行う必要がある。	ホームページの充実を図り、幅広い情報発信を行う。	①掲載内容を検討し、充実を図る。 ②保護者用ページを設置し、運用する。	①週1回以上更新できたか。 ②保護者用ページを本格的運用できたか。	①更新回数・内容共に向上した。 ①週1回以上の更新を実施。 ②運用面での課題があり、検討中である。	A	他校のホームページ等も参考にするなど情報収集を図り、ホームページの充実を図る。
		小学校、中学校、大学等との連携をより充実させ、地域への貢献をする。	①小学校、中学校での学習支援活動を実施する。 ②大学、企業との連携事業を実施し、キャリア教育の充実を図る。	①予定内容を実施し、連携の充実が図れたか。 ②生徒の進路実現や課題研究に有益な内容が実施できたか。	①予定通り実施した。 ①小学校学習支援・科学クラブ支援に63名、中学校補充学習支援に100名参加。 ②お茶の水女子大学と高大接続事業に係る協定を締結した。	A	地域や小中学校との連携は相互に効果があり、今後も継続していく。また、お茶の水女子大学をはじめとする、大学、企業との効果的な連携を図る。

学校関係者評価

実施日 平成29年2月4日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- 川女は「アクティブ・ラーニング」によく取り組んでいると思う。
- 保護者アンケート結果を見ると、川女が行っている「アクティブ・ラーニング」についてはもっとPRしてもよいと思う。
- 授業アンケートの数値を見ると、受験に使う、使わないによって学習意欲に差があるように見える。生徒としては幅広く学べる環境にあると捉えたい。
- どの授業でも話し合う時間を設けると生徒の意識も上がり、良いのではないか。
- 授業に関する要望もあるようだが、自分自身の改善も忘れないようにしたい。
- 学習できる環境に感謝したい。川女の良さを再認識して、頑張りたい。
- とても恵まれた環境にある学校である。そのことを自覚し、集中して学習できる工夫を各自がこれからも考えてほしい。
- SSHが採択されることを望んでいる。

- 学校生活を充実させるために何をすべきか考える姿勢が大切である。
- 生徒のほぼ全員がスマートフォンを持っているようだ。個人の意見が言いにくくなってしまったり、いくつかの懸念がある。
- 学校によってはスマートフォン持ち込み禁止のところもある。使用については、十分注意してもらいたい。
- スマートフォンがなくてはならない時代となった。賢く使ってほしい。
- 情報モラルは徹底されているように思う。

- ホームページやメール配信システム導入などで、保護者の学校運営への参画意識をより高めることができるとよいと思う。
- 学校評価懇話会への生徒オブザーバー参加募集の掲示があるのがよいと思う。より多くの生徒に参加してほしい。
- 小・中学校との交流事業は引き続き行ってほしい。